

日本原子力発電敦賀原発2号機と老朽原発は廃炉に！

2025年3月30日 山本雅彦

原子力規制委員会は、昨年8月の定例会合で、日本原子力発電敦賀原発2号機が原発の新規制基準に適合せず、再稼働の条件となる審査に不合格とする「審査書」の案を了承。パブリックコメントを経て、昨年10月に正式決定しました。

しかし、規制委の判断をまつまでもありません。浦底断層とつながる柳ヶ瀬断層の「長大活断層」の連動を考慮すれば、M7.4~7.8大地震となります。原発敷地内にこのような起震断層があることが異常事態で脅威であり、不適合は当然です。

ところが、原電は、不許可になった場合でも2号機の廃炉は考えていないとして、追加調査を実施して規制委に再申請すると表明しています。

敦賀2号機は、2011年5月の停止以降から発電していません。しかし、関西電力など電力5社は、年間1,000億円を超える「基本料金」を払い続け、2011~23年度の総額は1兆4,000億円に上るといいます。

これらの原資は、国民の電気料金で賄われており、これ以上負担を続けることは許されません。私は、こうした観点からも、日本原電は再申請を止め、廃炉を決断するよう求めます。また、原電は適合審査で不正を繰り返しており、原子炉を安全に運転する資格はありません。よって、規制委員会は敦賀原発2号機の設置許可を取り消すことも求めます。

さらに、老朽原発の運転は超危険です。高浜1(50年)、2号機(49年)と美浜3号機(48年)は、ほぼ50年超の超老朽原発です。原発立地地元で実施したアンケートでも、老朽原発の再稼働反対は7割を超え、8割以上が「不安」と回答しています。住民の命と暮らしを守るためには、老朽原発の運転を止め、すべての原発の廃炉しか道はありません。実現するため共に頑張りましょう。